

都 退 教 協 だ よ り

No.281号

2017年12月20日発行

東京都退職教職員協議会 会長 柴田 廸春

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

向島百花園～白髭神社～玉の井～下町イタメシ 秋の交流会、下町の歴史と美味しい昼食会でした

秋の交流会は、秋の植物鑑賞から近現代の下町の歴史まで学び、内容は盛りだくさん、参加者こそ少なかったですが有意義な散策を



楽しむことができました。

向島百花園は、四季折々の植物を江戸の文人気分味わうこと

のできる場所ですが、植物に詳しい藤崎さんから花の名前や育て方まで学ぶことができました。

白髭神社では、村田さんが郷土教育で発表

したレポートを用意してくれ、治水工事に長けた渡来人にゆかりのある神社の歴史や、昔の堤防の跡を実地で学習しました。

永井荷風の「濯東綺譚」や滝田ゆうの「寺島町奇譚」で知られる「玉の井」を散策した後、村田さんお勧めの地元のパン屋さんが経営するイタリアレストランでランチをいただきました。料理もパンもとても美味しく、幸せなランチでした。



会員の声、お寄せくださりありがとうございます。 安部9条改憲 NO!憲法を生かす全国署名も119筆

前号で、改憲 NO!の署名と近況など会員の声をお寄せいただくようお願いしたところ、たくさんの皆さんが署名用紙とともに原稿を送ってくださいました。

ありがとうございます。

署名は、119筆集まりました。安倍9条改憲 NO!全国市民アクションに日退教を通じ

て送付しました。5月末まで署名を集約し、全国3000万を目標にしていますので、お手元に署名がありましたら送ってください。

「会員の声」は次ページに掲載しています。

多くの会員から声を寄せていただきましたので2回に分けて掲載させていただきます。

会員の声 (その1)

「天皇制 それは国民の課題」(及川輝治)

を読んで思ったこと

日高松子

図書館で「日韓メモリー・ウォーズ」私たちは何を忘れてきたか(朴裕河、上野千鶴子、金成玫、水野俊平著・弦書房)を手にしたばかりであったせいか「天皇制」について、日韓問題について考えさせられました。

政治からの圧力のみならず、「民衆のファシズム」=世間=空気とかいう同調圧力に抗することができるかどうかということが戦前から今日まで続いている問題であること。民主主義が改めて問われている。異論を唱える勇氣、空気に従わない勇氣を持ちたい。

諦めない。諦めないというのは、仲良くするほうが楽しいからという気持ちでやってもいい。72歳の今この言葉にしばれています。

自決のための手りゅう弾が心の支え

伊達和子

いつも、都退教だよりの発行、お世話様でございます。

今号で、柴田廸春先生(今から30年程前、私が世教組の青年部におりましたとき、先生にご足労いただき、ご著書「つっぱりの卒業」をもとにお話を伺い心に残りました。)の貴重な戦時下の体験記を読み、私の母の体験を少し書きたくなりました。

母は、職業軍人の父の関係で、北朝鮮で女学校に通い、終戦ギリギリまで兵士と同様に通信隊員として務めていました。北からの引き揚げ者です。命からがら奇跡的に日本に着いたのは、終戦翌年の2月だったそうです。

母たち引き揚げ者は、外国は勿論、日本政府からも見捨てられた完全な“棄民”です。逃げる途中、多くの死者があったようです。最もこわかったのはソ連兵だったそうで(自決のための手りゅう弾が心の支えだった)と

いう状況は想像することができません。母が戦争を憎む気持ちと安倍を拒否する気持ちはつながっています。私は母の分も、できるだけ国会前で声を上げてきました。これからも母の体調が許す限り、反安倍、反改憲の行動に参加したいと思います。

子どもたちの「心」が

うばわれていくのが心配

片桐健司

定年退職をして10年。10月で70歳になりました。

今は、大田区の小学校で習熟度別講師(区)、時間講師(都)、特別支援員(区)という3つの名前で仕事をしています。週5日の午前中勤務です。午後は、学習教室をひらいて、品川区内の地域活動でかかわってきた子たちと、週3回、勉強?をしています。学校では、はみだしがちな子(はみだされそうな子)がやってきて、けっこう大変ですが、楽しくやっています。

あと、障害児を普通学校へ・全国連絡会にもかかわっていて、週1回の事務所当番と、全国からの相談受付などもしています。相談では、こんなことがゆるされるのかと思うようなひどい差別が、学校内で、あたりまえのこのようにあって、心が痛みます。障害児をあたりまえのように分けてきたことが、先生たちの意識や行動にあらわれてきていて、学力至上主義の考え方とあわせて、子どもたちの「心」がうばわれていくのが心配です。

私の教員生活そして組合・都退教協

遠藤宏一

私の大学生活は、どちらかといえば運動音痴で何もできませんでしたが、兄の影響で器械体操だけは無理矢理させられ、普通の生徒以上はできるようになっていて、数学部でしたが、クラブ活動は器械体操部に入部して、下手でも都の大会に参加したこともありまし

た。

従って学生運動には何お興味もなし、学生大会なども理由をつけて逃げ出してばかりいました。

大学を卒業して就職するのも、何回も落ちて、最後に残った西多摩の中学校で数学の教員が不足しているため、補助教員の形で採用された位でした。従って組合活動も不熱心で最後まで組合に入らなかったのです。(当時は、西多摩ではほとんどの教員が組合に参加していました。)

教員組合に入ったのは、教師になってから2年目の終わり位で、先輩の教師から、すごくおこられて、しかたなく入ったほどでした。

当時、西多摩では各地域から執行委員を集めて組織していて、執行委員を出さなければならぬ地域から、それぞれ選出された委員がつとめていました。地域によっては選出のため頑張っているところもあったようですが、私たちの地域(羽村地域)では、義務でどちらかの学校から選出することになっていたようでした。

私が組合に参加して、3年目の春、羽村地域から2名の執行委員を選出することになり、私の学校からも1名選出しなければならず、その時、学校では主な仕事もそんなになし、独身であることを理由に、私が執行委員に選出されてしまいました。学校ではそれを大切に考え、学内の組織も大事なものをはずして、午後は組合活動に参加できるよう学校長も納得して選出してくれました。

当時は、西多摩の執行委員では一番若かったため、青年部担当として、青年教師の活動に参加させられ、午後の授業をはずされたため、当時、社会運動の中心になっていた「青梅事件」の担当に入ったりしました。

その結果、2年目(平常は1年で任務が終了するのが普通でした)に、書記次長にさせられました。学生時代に何の活動もしていなかったため、書記次長の任務もはっきりわからず、言われたことだけを頑張りました。(校長から「組合にのまれてしまって、困ったもの

だと怒られました。)

丁度その年は、有名な「10.21事件」の起きた年で、書記長、支部長が逮捕され、その救出活動もあって、連日のように組合本部にかけつけたものでした。組合のことをほとんど知らなくて、先輩の先生方に指導され、やっと書記次長の仕事をやったものでした。

次の年、当時の高橋書記長が、三多摩の事務局長に選出されたため、書記次長の私が書記長の職を引き受けることになってしまい、名前だけで何の仕事もできなく、他の人に任せているだけの書記長でした。

まわりの人達も理解してくれて、次の年度から分会に戻り、平常の生活になりました。

西多摩で10年経過したため、八王子に変わりました。八王子では役員選挙が盛んで、対立候補とあらそっていました。私は西多摩時代のことを知られていたため、最初から執行委員として選挙活動にも組み入れられ、当選しました。

八王子では、組合の副委員長、会計、福利厚生、等の役職を続けさせられ、退職まで執行役員の仕事を続けさせられました。

教員を退職する時も、当時の担当役員が年齢も来たので「お前がそれを引き継げ」といわれ、嘱託員部の役員を継ぐことになりました。嘱託員部の最初の会で、当時の多摩地区の人が家庭の都合で、あまり参加できないといわれ、多摩地区の担当をまかされましたが、その際に副部長にさせられてしまい、何も理解できないまま副部長を続け部長にまでなっていました。

また、それを理由に都退教協の役員もやることになり、事務局長、副会長、会計と続けることになってしまいました。



もっと組合活動に熱心で、いろいろな考え方のいる人たちが多くを思いますので、若くて意欲のある方達が変わってほしいものだと思います。

日退教 組織活動交流集会に参加して

藤崎喜仁

10月13日ラポール日教済で第23回日退教組織活動交流集会が行われました。昨年まであった、沖縄の辺野古新基地反対闘争や放射能に汚染された福島の高井等の特別報告はありませんでした。

〈分科・分散会〉は第1が「平和・組織」、第2が「教育・人権・組織」、第3が「福祉・文化・組織」で行われ、各分科・分散会には5～6本のレポートが提出され活発な意見交流が行われました。私は第3分科会の司会を担当したので、その概要を報告します。

福祉・文化・組織分科会報告

レポートは①芸能大会・忘年会の取り組み(四国ブロック 高知県退教) ②文化展「比企野」の活動(関東ブロック 埼玉県退教) ③沖縄高退教 作品展の取り組み(九州ブロック 沖縄高退教) ④現退一致で組織の強化拡大を(関東ブロック 東京都退教 江戸川) ⑤再任用者と雇用保険(関東ブロック 神奈川県高退教)の5本でした。

①高知県教職員友の会からは「芸能大会・忘年会への取り組み」の報告でした。団塊世代の大量退職に政府は年金受給年齢を引き下げ、穴埋め制度として再雇用・再任用制度を実施した。そのため、定年後も働く人は多く、また肉体的にも精神的にも健康であり元気である。

趣味の発表の場として作品展は多くあるが、芸能面での発表の機会が少ないと思い芸能大会実施した。会員が増えることを期待して、現職・退職問わず教育関係者なら誰でも参加出来ることとした。この取り組みは、2009年12月から続けており活動も順調である。カラオケ・詩吟・舞踊など日々精進している芸能を1組3分程度で発表し、審査も行い協賛団体からの豪華な賞品も用意されている。ちな

みに、日政連議員の那谷屋氏もカラオケに出場したと云う。忘年会には50～60人が参加。課題は参加者の年齢が70代後半から80代と高齢化が進んでいること。また参加者は高知全県から来ており、交通の便が悪く車で2～3時間もかかり、4～7人で乗り合わせして参加している。

②埼玉県教職員協議会比企支部からは、文化展「比企野」の活動について報告があった。この文化展は1991年から27年間中止することもなく続いている。文化展発足の動機は、「退職後の長い時間をどう過ごすか」、年金・医療・介護等で政治を動かし、良い制度を確立して安心した老後を送る社会を作る為に闘うことも大事。でも「それだけで良いのだろうか」と話し合った。「高齢者は一日一日をどう生きてらよいか」「支部として何ができるのか」話し合い、趣味や特技を生かし、好きなことに取り組み《自分を燃焼させる》《輝いて生きる》には、文化活動が一番という結論に達した。

出品部門は絵画・版画・書道・写真・陶芸・工芸・文芸・俳句など多岐に渡っている。出品者を増やすために作品は、「ヘタでいい」「ヘタがいい」と呼び掛けている。心を込めて一生懸命やれば、その人にしかできない表現になり、「ヘタが上手をこえる」と云う。

最近の出品数は150点を超え、入場者数も500～600人である。会場確保や案内状発送等、企画運営は大変な作業であり、会員の高齢化と現職の参加の少なさ等の課題もある。

③沖縄県高退教からは「作品展の取り組み」の報告でした。

1995年に結成され、総会や役員会、反基地・平和運動や学習会などの他にボーリング大会・囲碁・歴史自然散策・研修旅行・料理教

室と隔年で作品展を行っている。作品展これまでに3回実施され、「趣味や創作活動の研鑽に励んでいる会員の発表の場」「会員の交流と充実した生活を送る一助」「地域社会の交流と地域文化の理解を深める機会」として実施された。展示作品は美術工芸・書道・写真・文芸・手芸・生け花・盆栽等である。出品者数は50人程で出品作品数は100点余りである。三回の会場はデパート・県立美術館・地域の文化センターと場所によって差はあったが、琉球新報・沖縄タイムスでも紹介され平均400人が来館した。作品のレベルが高く、「良い作品展だった」と云う評価の反面、レベルの高い作品にしり込みをして、出品をためらう会員いるのですそ野を広げることが課題の一つ。

作品展を通しての成果は、内部を固める意味での組織強化になり、高退教の理解と地域社会との交流が図れたこと。新会員も若干ながら増えたと云う。

④東京都退教協からは「現・退一致で組織の強化・拡大を目指して」と題し、江戸川区教組OB・OGの取り組みの報告でした。2008年に組合活動の中心にいた仲間の多くの退職により、組合活動の接点がなくなることへの不安から「江戸川区教組OB・OG会」を発足した。「会員の親睦」「各種動員や国会前行動、教研集会や夏季合宿に現退一致で参加」「現職組合のバックアップに心がかる」と目的を定めた。発足当初は隔月ごとに居酒屋で会員の近況報告を行い、その後、趣味や旅行に行った話しや政治・文化・教育活動など何でも自由に喋ってきた。春と秋には歴史探訪やフィールドワークを実施し、飲み物・食べ物をそれぞれ持ち込み、会員の自宅での交流会も年に三回は実施している。現職と共に活動していることの中に、夏季教研合宿があり、参加者は必ずレポートを提出しそれを全員で学習し



検討もしている。

地域の平和運動として、戦災犠牲者追悼式・東京大空襲慰霊碑巡り・原爆犠牲者追悼式典等にも参加。2011年東日本大震災後の7月は、福島県教組いわき支部と交流し地震・津波の被災地を訪れた。翌年から郡山支部・県教組本部・県教組青年部と合わせて4年連続交流を重ねてきた。その後千葉館山の戦争遺跡巡りや西多摩支部と共催の横田基地巡りも実施し、今年は再度いわき市を訪ねて今の福島を見てきた。また、沖縄の闘いに連帯し、辺野古基地建設反対に参加するテント村に連帯の旗を20枚以上も手渡ししてきた。2012年にはブログ「江戸川教育文化センター」を設立し、「教育」を中心に政治・社会・映画・園芸等様々な課題の投稿が写真付きでアップされ読者数も増えていると云う。

⑤最後は神奈川高教組シニア運動より「再任用者と失業保険」の報告だった。

これは、60歳定年後に再任用や再雇用で65歳まで働いた者は、申請することによって雇用保険（失業手当）を受け取ることが出来る。これは60歳定年退職後、「週に20時間以上の勤務」を満たした者は、雇用保険に加入しており給与から一定の額が天引きされているからだ。失業給付を受けるには、ハローワーク出向いて求職者登録をする必要があり、求職相談窓口で担当者と相談をして、働く意思を示す必要がある。

その他、写真だの身分証明書だの離職証明書とかそれなり書類を揃え、失業手当を受給する資格があるかハローワークが判定を行う。とにかく面倒くさい。時間がかかる。

私の体験だが窓口相談にたどり着くまでに、待たされること半日余り。1度で終わらず、2～3度はハローワークに行った。必要な書類を揃えて申請し受給資格を認められ、3か月後くらいに失業給付一時金50日×数千円が銀行に振り込まれた。

受給資格があっても申請しなければダメなので、申請時期を逃したり面倒と申請しなか

った人も多いと聞いている。退職金も年金も減らされ、年金からは所得税や介護保険料などかなりの金額が引かれてくる。それを思うと申請すべきと思った。

組織活動交流集会の司会を担当して5年目になった。昨年の報告にも書いたが、各県の取り組みを聞いていると「退職した組合員の活動の姿」の違いが浮かんでくる。

「忘年会」が退職組合の活動なの？と驚くかも知れないが、退職すると働く場だった学校がなくなる。職場が無くなると人との関わりが減ってくる。誰もが現職と同じような組合活動は出来ない。

退職後は学校に替わって、家庭や地域が職場ようになる。かつて日教組の組合員であった自分が、地域社会の中でどのように生きていくのか。それぞれの生き方は同じではない。歳月や時間は誰にも平等に与えられているが、個々人に残された歳月や時間には限りがある。だからこそ、「今出来ること」「今やってみたいこと」に力を注ぐことが大事と思う。



編集後記

◇ 国会前や集会などには行けなくても署名ならできますよ、と憲法署名を子孫、ご近所の人々にも呼びかけてくださった方もいて、安倍9条改憲 NO!署名も119筆になりましたが、第2次集約は、4月25日です。まだの方は、ぜひ送ってください。前号に、署名用紙と切手不要の返信用封筒が入っています。今年の5月3日憲法記念日の憲法集会で3000万人が達成できているといいですね。

◇ 沖縄では、米軍の事件が多発している。米軍ヘリの墜落、故障、部品の落下。強姦殺人、酒酔い運転による死亡事故。最近だけでも枚挙にいとまがない。その上、石垣、与那国などは、離島防衛と称して自衛隊基地を強化している。

沖縄の人々の戦争への不安と恐怖は極限に達しているが、沖縄に限らず日本全体が同じ不安と恐怖に包まれていると言っても過言ではない。なぜなら、トランプ大統領も安倍首相も東アジアで戦争を起こすことを厭わず、両国は一体の同盟国だと公言しているからだ。すでに自衛隊は米軍の指揮下にあり、ひとたび戦争が起これば沖縄にかぎらず日本列島全体が戦争の最前線として標的になることは明らかだ。北朝鮮、中国との対話と平和友好以外に私たちが生き延びる道はない。地上戦を強いられた歴史を経験した沖縄はそのことを一番よく知っている。

米軍は、アメリカ本土を戦場にしないために日本を最前線にしようとしている。それがアメリカの国益であり、「アメリカ・ファースト」なのだ。その証拠に、米国の国家安保戦略の主なテーマには①米国民、米本土の防衛②米国の繁栄③「力による平和」の堅持④米国の影響力拡大を掲げている（12/18 東京新聞）。

◇ 山城博治さんが沖縄現地からの報告をしてくれる。2月16日(金)14:00 教育会館9F

◇ 浜矩子さん講演「成熟経済日本をどう輝かせるか」2月14日(水)13:30 田町交通ビル

◇ 立憲民主党が野党第一党になり、名前の通り憲法による国家権力の暴走制御(立憲主義)に基づく政治をすすめようとしています。参議院、地方議員からも立憲民主党に参加する流れも強まっています。

◇ 寒波襲来で寒い日が続きますが、会員の皆様、元気でよい年をお迎えください。

(谷口記)